

東京農業大学



# 湘南稲桜会だより

発行 東京農業大学 校友会神奈川県支部 湘南稲桜会 発行責任者 松居靖雄  
事務局 〒238-0032 横須賀市平作4-1-9 清水圭一方 TEL 046-854-0044

## <平成27年 研修旅行記>

下嶋武志 (S45 造園)

平成27年10月18日(日)ラグビー可能な総勢18名の稲桜会の精鋭が、秋晴れの逗子市役所を午前8時に出発した。

行く道は Japan Way か東名か

紅葉の 箱根は噴煙と 雲隠れ

御殿場から東富士五湖道路を通り山中湖へ向かう。

以前は須走から国道138号箆坂峠のルートで、筆者は40年前ガス欠の中型バスを数人で1km近く押し登った。雨中の峠越えのみじめな苦労は今はない。

日曜日なのに道が空いていて、予定より30分早く10時に山中湖花の都公園に到着した。

相模川上流の一級河川桂川に架かる500mのウッドデッキの花の都大橋を渡り30万平方メートルの園内に入る。ここは戦後の開拓地の花畑であると先輩に教えられた。有料区域と周辺の園路沿いの展示花木、花卉を見学後、七合目まで冠雪した富士山を背景に記念写真を撮る。

駐車場迄の帰途は桂川沿いで川幅は数メートル程だが用水路のような水量と早さを実感、それに

ひきかえ骨粗鬆症で少しやせた妻の姿に

学問上 妻より重し ニュートリノ

11時30分出発、忍野村を通過。

この村名は明治8年2月忍草村と内野村が合併したもので、人口9千人余り 面積25平方キロメートル余りの世界遺産の名所である。

忍野でも 上野へ出れば 不忍池

バスは河口湖を通り、御坂トンネルを12時に過ぎ、15分後 一の宮金桜園で昼食とぶどう狩りをした。

ぶどう狩りの期間は例年8月5日から11月3日頃迄、品種は8月にデラウェア、巨峰、9月甲斐路、10月ベリーA、甲州の5種類である。

一房切って3人でシェアして食べた、今風なのか糖度が高すぎる。若い人は5房も食べていた。ブドウの糖度はマスカット、甲斐路は20度。16度から販売許可になる。(金桜園談)

糖度(SUGAR CONTENT)砂糖の含有度を百分率(%)で表したものをいう。(調理用語辞典) 度、% 同義か

他の果物の糖度は温州みかん9%、リンゴ(ふじ)15%、ブドウ(巨峰17~18%、デラウェア18~20%) (新編原色果物図説・養賢堂)

半世紀以上前のほのかな甘みのマクワウリも懐か



しい味である。



次に隣の勝沼町の白百合醸造に14時20分到着



松居会長の後輩の内田社長と挨拶を交わしぶどう畑を歩きながら説明を受けた。

ぶどう畑は、自社2ヘクタールと他の7ヘクタールを加えた面積で栽培、15～20年生のものが多く、3～4年で実を付け始める。

1本の樹から20房しか収穫出来ない。日本は棚式が多いが笠かけ（雨除け）が必要、ほかに垣根仕立てを珍しく見た。作業が容易で西洋に多いとのことであった。

ベリーAは赤ワインに、甲州※、シャルドネ等は白ワインになる。

ワイン工場、土産店でワインの試飲の上、白ワインをみやげに購入。

15時出発 フルーツライン（一般道）を通り、中央高速へ 17時30分予定通り逗子へ到着、皆様ありがとうございました。

※甲州は1300年前から栽培され、皮が固い。10房で1.2kgあり、1本のワイン（720ml）ができる。

### 〈地区からのたより〉

## 伊豆大島の椿園 国際大会にて “ツバキサク”

齋藤道生（H13 農業工学修士）  
東京都立大島高等学校 農林科教諭

東京都立大島高等学校の農林科で農業教育に携わり、この4月で10年目を迎えます。伊豆大島の暮らしもすっかり定着し、もうしばらくこちらで頑張りたいと思っています。

さて、そんな伊豆大島から話題をひとつ提供したいと思います。

この度、伊豆大島にある3つの椿園が、国際ツバキ協会2016中国大理大会において「国際優秀つばき園（International Camellia Gardens of Excellence）」に認定されました。「国際優秀つばき園」とは、国際ツバキ協会（本部：ロンドン）が、国際的に特に優秀であると認めた椿園のことです。これまで14カ国39園が認定されており、国内においては、6,7,8番目の認定となります。

以下に、それぞれの椿園の特徴をまとめました。

#### ①大島公園椿園について

世界最大級の椿園で、東京ドーム約1.5個分の広大な敷地面積に、約1000種類の園芸品種3200本に加え、5000本のヤブツバキを有します。また、併設する椿資料館にて歴史や文化を紹介しております。

#### ②都立大島高等学校椿園について



1977年から椿園の造成が始まり、現在では380種、1000本以上の椿を有しています。教育機関の認定は世界初の快挙となります。農林科に在籍する生徒は、椿園の管理作業はもちろん、椿園ガイドも実施しています。

#### ③椿花ガーデン椿園について

民間施設として世界初の認定で、400種、2000本以上の椿を、有料で公開しています。9月に咲く日本一早咲きのツバキが計画的に配置されており、同時に富士山も眺望できるため、その眺めは

絶景です。

## <会員の活動紹介>

### 第二の人生はドブ板通りの「Kadoya no BAR (カドヤのバー)」

中谷 真司 (S55管栄)

2013年7月、55歳で33年間のサラリーマン生活に終止符を打ち、第二の人生を地元横須賀でスタートさせた。通勤に往復4時間、早朝出勤、深夜帰宅は当たり前前の激務から解放された。家族からは、「何の相談もせず自分勝手に退職した」と今でも愚痴られるが、こころもからだも元気を取り戻せたのだから良い決断だったと思っている。



←  
店舗  
外観



→  
店舗  
内観

京急線「汐入駅」下車、徒歩3分。アウトドアショップカドヤに併設したカウンター8席だけの小さなカフェ&バー。ここが私の城。ひとりで切り盛りしている。

①日本の食文化を大切に ②可能な限り地場産品を ③四季折々に美味しいものを、の3つが店のコンセプトだ。

日本人の食の原点は、「米」。毎朝玄米を精米し、飯を炊く。ランチタイムには、主菜、副菜、香の物、横須賀野菜の具沢山スープと共にお客様のお腹を満たし、「美味しかったよ」のひと言が私の心を満たす。

横須賀は、独特の地形と気候により、四季を通じて魅力的な食材が豊富であることに驚かされる。イワシ、サバ、地ダコ、あさり、牡蠣、湘南しらすなどの魚介類。「猿島わかめ」、「昆布」、走水の「海苔」などの海藻類は名産品として名高い。キャベツ、枝豆、トマト、三浦大根、すいか、メロン、いちごなどの大地の恵み。幻の牛肉「葉山牛」。

産みたてで新鮮な鶏卵はいつでも手に入る。枚挙に暇がない。

旬のものを新鮮なままお客様にお出しする上で、生産者である地元の農家や漁師さん、同業者との繋がりには欠かせない。少量発注にも関わらず、配達に応じてくれるし、指向を同じくする飲食店主等は、駆け出しの私に情報提供や調理技術、店舗運営のノウハウを惜しみなく教えてくれる。“横須賀人は面倒見が良くて本当に温かい”とつくづく思う。感謝の気持ちで一杯だ。



←  
横須賀  
野菜の  
おでん

季節感も大事。ジビエの季節は、ヒゲマやエゾ鹿肉を現地の知人から取り寄せ、シチューやジャーキーを作る。走水産牡蠣の燻製づくりも忙しい。冬季限定メニューだったおでんは、具材を野菜中心にした「横須賀野菜のおでん」としてリニューアル継続。猿島昆布とかつお節で出汁をとり、野菜の持つ旨味と相まってお客様の評判は上々。

雪解けになれば、溪流釣り名人の師匠に随行し、信越方面の山奥に分け入る。岩魚を釣り、山菜を採り、おつまみに仕立てる。

酒の品揃えにも工夫を凝らしたい。国産ラム酒や黒糖焼酎を使った梅酒や三浦産レモンを使ったレモンチェッコ、マタタビ酒は、手づくり。自慢の逸品だ。国産地ビールやレアもののウイスキー、下戸の方にも楽しんでいただけるようソフトドリンクも用意している。「マスターのところは、他店にはない珍しいものがあるので楽しみ」と言われると、思わずニヤリとしてしまう。

お客様は、近隣在住・在勤の方が多い。観光で来られた方には、当店で“横須賀の味”にふれ、横須賀人の温かさを実感していただけたらと願う。お隣同士が打ち解け、憩いのひと時を共有する。小さい店だからこそできること。

とりとめのない話しになってしまったが、同窓の皆様にも足をお運びいただけたなら、望外の喜びだ。ご来店の際は、「だよりを見た!」と仰ってください。農大生ならではの「お・も・て・な・し」をさせていただきます(笑)。

横須賀市本町2-8

電話 046-827-8957(アウトドアショップと共用)

URL: <http://dobuita-kadoya.com>

## 東日本大震災から5年 復興ボランティア課題と現状

池田 尚弘 (S40農学)

3月11日で東日本大震災から5年を迎えました。地震津波により直接・間接に犠牲になられた方々、原発事故で直接・間接に犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、今なお避難生活を送っている方々が一日も早く平穏な生活に戻ることができるよう願っています。

・発災の2011年7月から毎月一回7日～10日程度のボランティアで何う身からすればあつと言う間の5年でしたが、被災された方々からすれば長かった5年かも知れません。

・岩手県・宮城県の沿岸部および福島県浜通り北部の地震・津波被災地では早くから復旧の手が入り、復興の槌音も賑やかに堤防や市街地の嵩上工事が進み、ほとんどの地域では様相が一変しています。

・しかし、原発事故の影響を強く受けた福島県浜通り中部は立ち入りが制限されたため津波・震災の後片付けさえ出来ずに今日を迎えている地域も多く、除染工事で出た黒いトンバツクの山積みだけが目立つばかりです。以下、昨今日にする光景を写真でご覧ください。



←四季が巡り花が咲き果実が成っても家人は避難して留守。サルやイノシシの餌になってしまう。



↑南三陸町の旧防災センター（屋上位置より高く嵩上造成）



↑陸前高田の変容（高台住宅地造成で発生した土は市街地嵩上げのためベルトコンベアで移動）



←2011年3月11日のままのカレンダー（帰還準備のボランティアで何うと見受ける光景）



←原発事故で帰還困難地域に指定された国道6号線沿いガソリンスタンド（当時の単価のまま）



←女川町・地元被災者による新生柚子園造成（寒さも厳しいがシカの食害が甚大）



東京電力福島第一原発事故から間もなく5年。浪江町(福島県)からの報告。  
**決死救命・団結 そして希望へ**

主催：栃県・福島からつながる絆の会  
事務局：弘前大学教育学部 大坪正一研究室 TEL 0112-39-3473

日時 2月27日(日)午後3時～  
会場 弘前市民会館大会議室  
講師 吉沢正巳氏  
（「希望の牧場」代表）

※入場は無料です。

←原発事故被ばく牛330頭を飼いつける昭和52年度畜産学科卒業生（福島県浪江町）

愛車 fit での車中泊5年目(外気温-15度でも車内・寝袋内は貼るカイロで超快適)→



## 私の老後の過ごし方

### —社会資源の活用—

廣濱 徹

(S41 造園)

大学の教員を43年間続ける間には、社会の流れは大きく変わり、20年目位経過して、学生の相談・指導において、教員魂がなせる業か、あまりにも大学生が幼稚に見え、思考回路の欠如に突き当たり、私の子供が中・小学生であった関係で小・中学校での教育を知りたくPTA活動に参加し、当時の教員・保護者・生徒の様々な生活環境を見せられ、自分が納得する面と変えなければと思う面が交錯し、当時、中学校が荒れていたPTA会長としての試練に関わり、また、社会内で様々な不穏な動きというか若者のシンナーや非行が進み、その関係で保護司にならないかとの依頼を受け、何も理解しないままに平成9年に拝命し、19年間も過ぎ、その間には様々な人間関係(親子、友人、雇用など)に関わり今に至っています。

そもそも、保護司とは非常勤の無給(活動に要した実費弁済費は支給)の国家公務員で法務大臣が委嘱する更生保護のボランティアであり、犯罪や非行に関わる対象者を犯罪予防と立ち直りを助ける活動であります。

具体的仕事は、1) 保護観察になった人への助言・指導、2) 刑務所や少年院など(矯正施設)に入っている人の出所後の生活環境の整備、3) 地域での犯罪予防のための啓発・宣伝活動、4) その他犯罪の予防のための自治体など関係機関・団体との連携・協力などが主な仕事であります。1)、2)では、保護観察所の依頼を受け、3)、4)は地域の方では保護司の一員として他の保護司と共同で行います。

矯正施設での更生と違い、社会内での更生はハードルが高く、再非行に走るものも多く、苦悩の連続ではあるが自分が成長する機会でもあります。自分が年齢を重ね、年取ったのか、現世を反映した若者や時代に乗り遅れた感が多く(モバイルの発達、仕事の在り方など)、毎日が試練の日々であります。社会の浄化に少しでも、一人でも更生の道が開かれれば幸いと思い日々過ごしております。

また、犯罪は人が引き起こした行動ではあるが、人を憎まず、罪を作らず無くすることが大切で、地域の方々の理解と協力が大変必要なことではありますが、私なりに日々努力することが、社会参加の老後の過ごし方であろうと思います。

### <会員からのたより>

研修会の出欠席回答はがきに寄せられた会員のたよりをお伝えします。 敬称略(事務局)

## (横須賀地区)

- ・原島 純憲 (S26 学農)  
おかげ様で息災に過ごしています。役員各位にはご苦勞なことと御礼申し上げます。
- ・石橋 順作 (S34 学林)  
元気です。よろしくお祈りします。
- ・寺井 俊介 (S35 学化)  
介護ですから色々ありますが、お昼を食べたり、おやつを食べたり、テレビを見たりして一日一日を過ごしております。夜もよく寝ています。出席していたころにはお世話様になりました。
- ・廣濱 徹 (S41 学造)  
本年は諸用のため出席できません。盛会を祈念いたします。
- ・中谷 真司 (S55 管栄)
- ・中谷 弥栄子 (S57 管栄)  
ご盛会を祈念いたします。
- ・湖水 康史 (S62 学農)  
今年は雨に苦勞しています。このところ、毎年天候に苦勞しているようです。
- ・中山 大海 (H3 学農)  
夏休み子供のリクエストを聞いて北ボルネオ旅行に行つて来ました。サンゴ礁の海で泳いだり、自然保護区でオランウータンやテングザル、群生して光るホタルなど見て十分に満足して帰つて来ました。最終日屋台でドリアンを食べただけ腹を壊したのがオマケでした。
- ・堀江 有二 (H3 学林)  
町内会の行事のお手伝いを行うことになりました。参加することができません。ここ数年参加できていなかったのが今年こそはと思っていましたが残念です。来年こそ参加したいと思っております。皆様によりしくお伝えください。
- ・齋藤 道生 (H13 学工)  
都合により参加できません。皆様によりしくお伝えください。

## (鎌倉地区)

- ・渡邊 亘 (S23 学化)  
高齢による体調不良のため欠席します。
- ・酒井 保(S26 専化)  
いつも連絡、案内ありがとうございます。体調をくずし、研修会その他活動一切参加できなくなりました。研修会実り多い会となりますように。
- ・梅澤 稔 (S33 学農)  
研修を楽しみにしておりましたが、急に地域の用件で出席出来なくなり残念です。皆様によりしくお伝えください。
- ・磯谷 ゆり子 (S48 学栄)  
毎年秋のバス旅行を楽しみにしております。今年も主人共々お世話になります。お天気に恵ま

れます事を祈って… ぶどう狩りや白百合醸造も楽しみです。

・渡邊 文雄 (S59 学工)

既に予定があり、欠席させていただきます。盛会を祈念致します。

(逗子地区)

・鈴木 久彌 (S33 学農)

元気で働いています。

・関 恵梨子 (S50 学栄)

主人も参加しますのでよろしく。

(三浦地区)

・池田 尚久 (S40 学農)

月例ボランティア期間に重複してしまい残念ですが欠席させていただきます。

10月18日は女川にて柚子園建設作業をやっています。バス旅行の安全を祈っています。

・臼井 浩 (S41 学林)

可もなく無く不可もなく“日々是好日?”でしょうか…

・川名 昌雄 (S48 学農)

秋の山梨、紅葉も始まってきれいだと思いますが、前日用事がありますので、今回も欠席します。皆さんで楽しんできて下さい。

(葉山地区)

・水留 亨 (S44 学造)

忙しい忙しいと言っている間に…段々忙しい毎日です。何でそんなに忙しいのでしょうか?勿論死ぬまで勉強とあそびで時間が過ぎてゆくのです!! ムダにしたいと思うと忙しくなりますね!

事務局の皆様いつもありがとうございます。

・下嶋 武志 (S45 学造)

妻と2名で参加希望。行程上ゆったりした県内にしてほしい。

### <会費納入のお願い>

毎度のお願いになりますが、年会費 3,000 円の会費の納入をお願いいたします。年2回の会報「湘南稲桜会だより」の刊行、研修会の開催、総会での講演会、箱根駅伝応援等を皆様方からの会費や寄付によって行っておりますが厳しい状況になりつつあります、今後も活発な活動ができますよう引き続きお願いいたします。(事務局)

### <新会員の加入勧誘のお願い>

日ごろより会の運営に対し、ご支援・ご協力をいただき有難うございます。

校友会活動の活性化を図るため会員の加入促進に取り組んでおりますが新規加入者があまりありません。将来的に湘南稲桜会が維持発展してゆくには新規会員の加入が急務であります。このために

は皆様方の力が必要です、お知り合いの方に声をかけて加入をすすめて下さい。校友の絆と伝統ある湘南稲桜会の無限の発展のため是非皆さま方をお願いいたします。入会案内のチラシが事務局にありますので必要な方はお知らせ下さい。(事務局)

## 平成28年度定期総会・

## 創立20周年記念式典のお知らせ

平成28年度定期総会を下記のとおり開催いたします。本年は当会創立20周年の年にもあたります。

会員の皆様のご出席をいただきたくご案内申し上げます。  
記

1. 日時 平成28年6月5日(日) 午後1時30分～6時
2. 開場 ホテルハーバー横須賀  
横須賀市汐入町2-7 電話 046-822-0001
3. 議事 (1) 平成27年度事業報告ならびに  
収支会計報告について  
(2) 平成28年度事業計画ならびに  
収支予算案について  
(3) その他
4. 創立20周年記念式典  
感謝状贈呈ほか
5. 記念講演  
「生物の機能性を社会に落とし込むインセクト・テクノロジー ～環境と経済の両立を目指して～」  
東京農業大学農学部農学科 長島孝行教授
6. 懇親会 参加費 7,000円  
準備の都合がありますので、お手数ですが出欠のご都合を同封のハガキにて5月15日までにお知らせください。(詳細は別途ご案内いたします。)

### <編集後記>

湘南稲桜会だより35号をお届けします。3月のはじめ「初音」を聞きました。初音とは、その年の最初に聞くウグイスの鳴き声とか。古来より人々は春を告げる声と関心を寄せていました。これから日本列島を西から東へと鳴き声を響かせていきます。

一方、桜の開花予想も例年より早まり、日によっては陽光まぶしい温かい日には春到来が実感できる季節となりました。

本号も発行にあたり重点の記事はどこにするか、編集委員会で話し合いを重ね、会員が活動しているボランティア、営業(生業)趣味等の活動状況を多く紹介することにしました。執筆依頼し結果4名の会員から寄稿していただきました。会員の活動紹介は会員が情報を共有するためのコーナーです、編集委員会ではすべての会員諸兄の動静を知ることはできません。ぜひ会員の皆様からの投稿をお待ちしています。(M. K)